# NPOこどもすぺーす柏と私

**ついにこの時が来た。万感の思いを込めて理事が振り返るこどもすぺーすの15年間。**

## 1．柏子ども劇場からNPOこどもすぺーす柏へ

**辻　千也子**
こどもすぺーす初代理事長。昨年NPOを閉じようという話が出て、最後を看取るつもりで理事に舞い戻ってきた。

**辻**　1990年代には30年間やってきた任意団体の柏子ども劇場を組織として運営するのが難しくなっていたんだよね。会員が増えず、地域からサークル長を出すことも出来ず、頭打ちになっていた。

**井野口**　ずっと右肩上がりでやって来た会のやり方を、予算も含めて変えられなかったんですよね。

**辻**　全国があって、関東があって、県があって、市があって、全国に子ども劇場運動を展開する、という組織だったんだけれど、会員数が減り始めて、段々とこのままではやっていけないっていうことになって、それぞれのところで自立して下さい、ということになったの。だから、どうすればいいのか随分勉強したんだよね。

**井野口　典子**
現理事長。こども劇場から数えて36年。理事になる気はなかったのに、気づくと何故か理事長だった。

**井野口**　そう。NPOになることで、活動を続けていけるんじゃないか、っていう選択をしたんですよね。

**辻**　阪神大震災があって、ボランティアっていう言葉が世の中にすごく広まって、1998年にNPO法が成立したんだけれど、私たちがやって来たことってこういうことだったんだよね、と思ったし、自分の子育ての経験をきっかけに、まわりの子どもたちも幸せにしていくんだっていう生き甲斐を持って子ども劇場に係わっていたね。子ども劇場は任意団体としては行き詰まりが見えて、始めは全国組織で財団法人を目指したんだけれど、とてもお金がかかって無理だった。勉強をしている中で、NPO法の成立を目指す動きが出てきて、これこそ私たちがやりたいことだって思った。

**司会**　ちょうど皆さん方が悩んで模索していた時期と、NPO法の成立の時期が重なって、NPOの理念にも共感した――。

**井野口**　行政は誰にでも公平でなければいけない。でもNPOはスポット的に必要なことを届けることが出来る。私たちは行政の手が届かないところをやっていきましょうって、そこがとてもピンと来たのね。 NPOになった時、集まった会費は地域の子どもたちのために還元されるべきですって、理想に燃えて考えていたのね。任意団体のときには会費は自分たち会員のために使われる部分が多かったから、会員にはそこがなかなか理解できなかったのね。少しでも理解を得てからNPOになりたいとかなりの時間をかけて移行したんだけれど、そこはとっても苦労したわね。

## 2．私たちがめざした会の理念

**所　英明（司会）**
非会員のまま松元ヒロ実行委員長を３回務め、２年前に入会。長過ぎる会議に面食らう。

**司会**　そんな訳で、15年前にNPOになりましたが、会を支えてきた理念はどういうものだったのでしょうか？

**井野口**　私たちは1994年に日本が批准した「子どもの権利条約」の精神に基づいて活動しますって、NPOの定款に謳って活動を始めたんですね。子どもと大人は人間として同等の権利を持っているんだということを念頭に置いて、すべての活動を形作って来たんだよね。

**辻**　子どものうちに、感受性をどう耕して心豊かに育てるのか。それにはいかに非日常を体験してもらうか ―― それが「鑑賞」ということなんだけれど ―― を大切にしていた。鑑賞とあそびは会の２本柱って言っていたわね。NPOになってから、私たちは「子育て支援」をしているんだよね、というのがすごく明確になってきた。それに「子どもの表現」というのをNPOになってからすごく意識するようになった。

**斉藤　由美子**
辞めるつもりが早20年。入会してもどういうシステムかさっぱりわからなかった。辻さんに見込まれたのが運の尽き。

**井野口**　講師の先生を招いて講演会を開いて、子どもの権利条約のことを随分熱心に勉強したんだよね。子どもには一人ひとり人権があって、違いが尊重されるべきで、子どもが自由に表現したことを認め合うことが大事なんだって。すごく共感した。それでNPOになった年に、子どもが自分を表現する場として「パフォパフォ」っていう事業を作ったのね。子どもが主体になって、舞台上で自分たちを表現するお祭りだった。NPOになったお祝いと、子ども

劇場から30年と、ふたつの意味合いでやったんだったね。
**辻**　初めて市民に向けてやった。会員はもちろんだけれど。
**井野口**　NPOらしさを形にできた事業だった。
**斉藤**　「世界でひとつだけの絵本づくり」とかもそうだよね。
**井野口**　絵本づくりもNPOになる直前から始めたわね。子どもの表現活動としてね。
**辻**　初めて行政の事業に協力したのよね。理事の中でもやろうという人と、ちょっと様子をみようよ、って人とに分かれて、すごく難しかった。
**井野口**　その頃、他の団体にもいろんな事業を助けてもらおう、一緒にやろうという視点が、ようやく私たちに生まれたんですよ。それで「パートナーとうかつ」さんから柏市が今度こういう事業を募集しているよって教えてもらったんですね。そういうことが「ステップアップ学習会」にもつながりましたね。

**永田　明徳**
入会して10年。最初は女性ばかりの理事会に入っていいのかなぁと思ったが居心地が良く定着した。

## 3．事業部と理事会　～終わらない会議の話～

**司会**　担当理事としてやってきた部の活動については？
**井野口**　「鑑賞」は高学年向き、低学年向きとか、昔はすごくお金も手間もかけて年間に10以上やっていたんです。会員数が減っていって大きな鑑賞会はできなくなってきたんだけれども、鑑賞部員は話し合う度に、回数を減らして規模を小さくしてもやっぱりいい作品を見つけて届ける、という努力を続けて来たんです。それが2008年に、突然バレエをやろうとなったのは何故なんだろう？（笑）　プラットフォーム事業で何をする、と考えたとき、本物の芸術と出会うという企画で、キッズアートシャワー@柏というタイトルで応募して助成金を得て、その集大成としてバレエをやろうってなったのね。赤字覚悟でやったらそれが思わぬ大ヒット（笑）。

**宮崎　信子**
辻さんに誘われ入会。入って２年目に事務局に。お金はなかったが、人件費を削ってはいけない、と教わった。

**辻**　会員が多かった時期は一千万円の予算を動かしていて出来たことなんだけれど、会員が減って、チケットを売って事業を行うのはほとんど初めての経験だったんだよね。
**井野口**　それで味をしめて「すっごく売れるんだよ～」って言って２回目のバレエで「白鳥の湖」をやったら何故か売れなかった（笑）。
**司会**　それでは、みなさんが一番印象に残る鑑賞会は？
**辻**　私はやっぱりバレエかな。本当に良かった。
**永田**　ぼくもバレエ。何百万円も先に払って、回収が後からでしょ。売れなかったら大変なことになると思ったけど、それをやるっていう気持ちが凄いと思ったのと、内容が良かったのと、チケットの販売に目茶苦茶苦労する（笑）。あと理事になる前に実行委員として関わって印象に残っているのは、「『もったいない』は日本の文化・江戸のエコ生活に学ぶ五つの体験シリーズ」ってあったじゃない？　あれだけのことを企画・実行できて、みなさんにそれなりに評価されるっていうのは凄い団体だと思ったよ。もうひとつ感心したのは、江戸のエコの前進座の芝居にしてもコッペリアのバレエにしても、事業をやろうとしたら相当な人手がいるじゃない？　その時の会員の力というのは凄いなと思ったね。伝統がある会だから出来るんだろうけれど。

**原田　圭子**
現事務局長・元理事長。まったく訳がわからないまま誘われて入会したが集まっている人が魅力的だったので続いた。

**司会**　吉田家の土間でやったバレエってあったよね。松元ヒロさんのソロライブの実行委員長として関わるようになった直後に手伝ったんで特に印象に残っているんだけれど、まず土間に自分たちで板を何枚も敷いて踊れるようにして、そこにプロのバレリーナの方に来てもらって、音楽も生演奏で見せるって、その発想が凄いと思ったし。
**井野口**　尋常じゃないよね（笑）。
**司会**　大変だったけれど、やってみたらその光景がなんともファンタスティックで綺麗でね、印象的だったなぁ（笑）。
**宮崎**　子ども劇場時代に幼児例会というのが出来て、こどもすぺーすになって0・１・２歳の鑑賞って「ここはぐ」のコンサートだけだったけれど、小さい子が生の舞台に触れるっていうのが凄いなぁと思って。どんどんやりたいなぁと思った。

### キーワード

**【子ども劇場】**1960年代に福岡県内の母親グループが設立し、その後全国に広がった。テレビの普及や核家族化などで、子どもたちを取り巻く文化や遊びが変わっていくことに母親らが危機感を持ったのが背景とされる。記録では、1983年時点で343団体37万5000人を擁し、観劇だけでなく自主的に例会活動も行っていた。
**【NPO法】**1998年12月に施行。特定非営利活動を行う民間非営利団体に法人格を与え、公共サービスやボランティアなど社会貢献活動の健全な発展を促進して公益の増進に寄与することを目的とする法律。「特定非営利活動促進法」の通称。
**【子どもの権利条約】**子どもの健やかな発達や主体性の尊重などをうたった国際条約。1989年11月の国連総会で採択され、90年に発効した。世界193カ国が批准。日本は94年に正式に批准した。条約には「虐待・放任からの保護」や「意見表明の権利」などが定められている。第1次世界大戦による一般市民、とくに子どもたちの受けた心身のトラウマ(外傷)への反省が契機になり生まれた条約。
**【パフォパフォ】**子どもの表現の場づくりを事業として５年間取り組んだ。子どもが主体的に取り組む個人や団体のパフォーマンスを公募し実行委員会もつくった。実行委員会でも子どもたちが中心になり、プログラム、舞台進行、照明、音響を大人と共にに運営。舞台発表だけでなく、裏方もプロと子どもが共に作る事をめざした。

**原田**　私はサイエンスショーの『でんじろう先生』かな。面白くて楽しくてためになった。終わった後会員さんに『これをこどもすぺーすが子どもたちに届けられて本当に良かった』と言われたのを今でも思い出すなぁ。

**司会**　では、あそび部の話に移りましょうか。こどもすぺーすにとって、あそびの代表といえばキャンプということになると思いますが、キャンプについては如何ですか？

**永田**　あそび部の夏の親子キャンプは、段々と一般の参加者の方々が多くなってきた。これは辻さんが良く言うNPOの方向性に合致してきていると思うんですよ。もう一つはこの事業で長年「子どもゆめ基金」という助成金を得ている。夏休み期間中に自然を体験して学ばせるとか、非日常とか、全部含まれて格安の値段で提供されている。NPOとして特筆されるものだと思うんです。

**司会**　ぼくは夏のキャンプは２回しか行っていませんが、実際参加者の評価はかなり高いですよね。その分バスの手配やキャンプ場の選定と予約など苦労していると思いますが、あそび部担当の斉藤さんは、例えば毎回料理をつくったりも大変なんじゃないですか？

**斉藤**　実は私、あそこで何もやっていないと思います。

**宮崎**　ええー？　斉藤さんがいないと回っていないと思うけど。

**斉藤**　事前準備はするけれど、当日はご飯の味付けくらい。

**井野口**　だって、あの大人数で分量考えてぴったり買い物するって、本当に凄いと思う。

**斉藤**　ぴったりではないけれど、慣れかなぁ（笑）。

**井野口**　ゆめ基金の申請もそうね。それからもうひとつ、キャンプを語る時に忘れちゃいけないのは若い人たちの存在よね。子ども劇場から育ってきた子どもたちが、次は自分たちが提供する側になろうって思ってくれて。

**辻**　あそびでは異年齢集団の交流をずっと意識してきたんだけれど、その子どもたちが段々卒業して年齢がばらけてきて、小さい子たち、中くらいの子たち、高学年の子たちと居

たのが、今はキャンプじゃないと異年齢が層にならないっていうか（笑）。普段から異年齢が層になって、下の子の面倒も見て、上の子たちはこどもすぺーすの担い手になってくれるようにと随分努力したけれど、そこは私は心残りだなぁって。

**司会**　長い歴史をもった会だけれど、世代交代というか、そこはやっぱりなかなか難しくて、だから一度は会を閉じようかという話が出たわけで……。幸い、代わりに理事をやります、という人たちが手を挙げてくれて存続するわけですが、難しい課題なんですね。次に、子どもの表現活動部は？

**宮崎**　元々表現することはあそびの中にあったんだけれど、あそびはとても幅が広くて、表現はあそびとはまた違った価値があるよね、ということであそび部から分かれたのかな？

**辻**　というか、たくさん鑑賞したじゃない？　たくさん吸ったものは吐き出さなきゃってことで、それは表現だよね？　ということから始まった。それがパフォパフォにもつながって行った。

**永田**　子どもの表現活動部は進化したと思うんだよね。例えば、絵本づくりはもう15年以上やっているんだよね？　それから宮崎さんが新たに始めたこともあるし。

**宮崎**　絵本づくりをやったことで、自分も新たに勉強し直さないとやっていけないと思った。子どもたちに提供するには常に自分が新しいものを吸収していないと子どもたちに持って行けないっていうか。そういう意味では、勉強したのはこどもすぺーすのおかげかも。こどもすぺーすにとっても、市の事業に協力することに意味があると思ったし、表現っていうのは出来たものが目に見えたから、行政の中にも理解者が増えたよね。

**司会**　では、子育て支援部はどうでしょう。

**原田**　「おはなし会」は、もちろん子育て支援なんだけど、今のママたちがどういうことを感じているのか、何を必要としているのか、知るためにも直接接することが大切と思ってやっています。

**司会**　パレット柏との共催事業となって、近年はますます参加者が増えていますよね。次は、広報部ですが。

**永田**　ニュースレターを市役所に持って行くと、認知度は上がってきたと感じる。日頃の活動が浸透してきているんだと思うんだよ。また、ニュースレターは何のために発行しているのか、というと会の使命を伝えることが重要だということなんだよね。その意味で、ニュースレターは役割をはたしてきたと思います。

**司会**　次はいよいよ理事会と事務局の話に移りましょうか。

**斉藤**　……会議が、長い。

**宮崎**　（笑）長年ずっとだから、慣れちゃったのかなぁ。

**井野口**　今は短くなったなぁって思うよね（笑）。だって朝10時から始めて、５時には終わらなかったものね。

**辻**　２時とか３時はあり得なかったね。

**井野口**　明るいうちに終わるってことがなかったもの！　何をそんなに話し込んでいたんだろうねぇ（笑）。

**原田**　理事の数が多かったから。色々な意見やこだわりもあった。いつまで話しても平行線というのもあったし。

**司会**　でもそれは財産かも知れないね。入会してその片鱗を知るようになって感心したね。まぁちょっと呆れるけれど。

**井野口**　（笑）呆れたでしょ。でも、あ、わかりました、それじゃその件は私が決めちゃいます、みたいなことはいっさいせず、異なる意見が出る中で、とことん話し合って、総ての事柄を全員で理解しようとしていたのね。

**宮崎**　そうやって物事を決めて行くってなかなかできないことで、パフォパフォなんかで本当に時間をかけて、子どもの

会議にじっくりつきあったよね。だから当時の子どもたちはあのときのことを今どう思っているのかなって思う。

**井野口**　私たちは会議の席で本当に違う意見をぶつけあって話し合いをするけれど、根底に信頼関係が出来ているから思ったことをきちんと言えるんですよね。

**司会**　そこがこどもすぺーすの強みなんでしょうね。では、事務局の話に移ります。考えてみると、事務局が専従で毎日事務所にいるっていうのも、結構大きなことだったように思いますが、どうでしょうか？

**原田**　それでも事業が重なると結構大変だったかな。特に子育て支援部には、私が担当理事で事務局で、さらに他の事業の仕事も同時にするため、追いつかないことがあって結構迷惑をかけたと思う。その分部長がきっちりとリーダーシップを執ってくれて、助かりました。

**司会**　もうひとつだけ会議の関連で触れておくと、議論をしている中で、男女の違いってこともあるのかもしれないけれど、永田さんの一言って、ポンと違う視点で入ってくるんで、議論の幅が広がるなって思うことが多かったんです。だから貴重で、こどもすぺーすにとって大事だったなって。

**井野口**　数年前に、私が理事長に就任して一番の貢献は永田さんを会員に迎えたことですって言われました（笑）。それは所さんもです。お二人の存在、ありがたいです。

## ４．出来たこと、出来なかったこと。そして、～こどもすぺーすの明日～

**司会**　最後に、出来たことと出来なかったこと、そして今後に託すこと、をお聞きできれば。

**井野口**　あのね、「やりたいなぁ」って浮かんじゃったことはかなりやらせてもらったなぁ、って思う。みんな大変だったかもしれないけれど（笑）。

**斉藤**　それでもとにかく理事長を支えて行こう、とは思っていたよ。

**原田**　井野口さんは子育てハッピーアドバイザーの認定資格を取って、初めはパレット柏のおはなし会でママたちに少しずつ話していって、やがてパレット柏の子育てフォーラムや中央公民館事業で講演会をするようになったんだよね。

**井野口**　原田さんもアドバイザーの資格は持ってるよね。教育委員にもなったし。

**原田**　事務局になって、何を目指すかって思った時、行政に認められて理事長や私が何かの委員になることだと思ったの。歴史ある会で事業も組織もしっかりしているけど、それだけじゃだめで、ある程度露出は必要だと思ったから、積極的に市のイベントの実行委員になったり、意見を求められたら答えたりしてきた。少しは意味があったかな。井野口さんは「柏市子ども・子育て会議」の委員にもなったしね。

**永田**　ぼくは、こどもすぺーすの認知度を上げたことは出来たことだと思うけれど、やり残したこととして、「こどもすぺーすの理念を広く届けて行くこと」は道半ばだったと思う。これは今後引き継ぐ方々に託したいと思いますね。

**辻**　行政に認知されてきたというのは出来たことだと思うけれど、この会自体がNPOとして自立することは今後も目指してほしい。会員を増やすのもそうだけれど、事業収入で会を運営することが出来るようになればいいなぁ、と思います。

**井野口**　私は、明橋先生と出会えたことが良かったかなぁ、この会にとっても。もともと私たちが持っていた、子どもたちに対する思いを、はっきりと言葉にして社会に広めて下

「これ食べない？」

さった先生に出会えたこと。ニュースレターに先生のコラムを連載出来たことも素晴らしかったと思う。

**斉藤**　私は青年の集団を作りたかったの。あの、以前は小さい子から大きい子までどの年齢の子もいて、それが育って段々スタッフになっていったんだけど、それがある年齢がいなくなって、つながりがなくなって来て、もっと子どもたちと関わりを持てる大学生や高校生がいっぱいいると良かった。こんなおばちゃんとあそぶより、若いお兄ちゃんやお姉ちゃんとあそぶようにしてあげたかった。

**宮崎**　パフォパフォをやって、子どもたちに自分たちが企画をして何かをやるという経験をしてもらったんだけれど、もっと続けられれば良かったなぁ、と思う。最初は大人が企画して子どもたちがやる。その内に子どもたち自身がある程度自主的にやるようになる。ここまでは出来たけれど、最後は完全に自分たちだけで考えて企画して実行する、大人はフォローするだけ。っていうところまでは出来なかったので。

**司会**　パフォパフォの経験って、ぼくは知らないんですが、とても大きなものだったんですね。宮崎さんはそれを今に生かそうというお気持ちが、とても強いんですね。

**井野口**　すごく大きい経験だったよね。

**宮崎**　そう。それを続けてやろうと決断できなかったのが残念だったのね。出来たのは、自分の意見が言えるようになったことかな（笑）。 自己肯定感を持てるようになった…。

**司会**　本当ですか？（笑）

**宮崎**　（笑）どっちかというと空回りするっていうか、意見なんか言わなくていいやと、上手く伝えられなかったりとか。自分を認めていなかったんだと思う。それがやっぱり伝えなきゃ、と変わった。良い何十年かを過ごさせて頂いたと…。

**司会**　成長したんだ（笑）。さて、今日はこどもすぺーすの15年を振り返っていろいろとお話しをお聞きしましたが、